

新型コロナのワクチンに貢献

ノーベル生理学・医学賞

10月4日(水)
「新型コロナのワクチンに貢献」

① ワクチンは、入れることで、みの「免疫」にかかりにくく、終わりにイギラ、毒性を弱くくしたウ、てきました。

② このワクチン、イルスではな、(m)RNAを使えるように、

③ ウイルスを使わ、る2人の研究成果、は良い点がありま、クチン開発には、ルスを大量に用意、からです。でもm、スそのものはいら、早く開発できるの、

④ mRNAは人間、伝情報の一部をコ、ピ」のようなもの、入るとレシピをも、く「質」がつくられ、は書きかえられる、作すれば、ウイル、同じく、体の中で、はたらかせること、

⑤ ただmRNAは、と、免疫に「悪者」撃されて、かえっ、しまう弱点があり、克服したのが2人、

⑥ 転機は1997年、カリコさんが、ペ、学で雑誌の「コピー、とき、ドリュエ、と出会いました。、しよに研究を進め、NAの一部を別の、え、「かざり」が、ると弱点を克服で、め、2005年に、

⑦ でも研究成果は、ま、り注目されず、、にも苦労したそう、アメリカの製薬会社、研究を進める会社、の開発が加速し、

⑧ mRNAの長所を、1月にウイルスの遺、ってからわずか11、として使われ始め、最初にワクチンを、アメリカのファイ、続いたモデルナ社、今年9月までに世、億回以上、接種さ、本の第一三共も今、初めて新型コロナ、チンが承認されま、

⑨ 最初にワクチン、アメリカのファイ、続いたモデルナ社、今年9月までに世、億回以上、接種さ、本の第一三共も今、初めて新型コロナ、チンが承認されま、

⑩ 新型コロナウイ、ロン株など、遺情、異株が次々と現れ、ときもレシピの情、ことで、対応する、やぐつへることが、うして、流行を最、

⑪ ノーベル賞の受賞、コロナ対策におい、の命を救い、さら、症化するのを防ぎ、生活にもどることを、と高く評価されま、は今後、がんの治、ではと期待されてい、

mRNAの長所を生かし短期間で世界へ